

地方議会での平和政治勢力の躍進と 平和運動の発展を勝ち取ろう！

平和委員会が10年来、追い求めてきた「地域からの平和発信」の取り組みの上で各自治体の平和行政の如何が大きく影響していることは日頃の経験から肌で感じています。12月の県議員、笠間・稲敷両市議会議員及び来年4月の一斉選挙で、平和憲法完全実施のために日米安保条約破棄をかかげる議員が数多く躍進することは、私たちの運動にとってこの上なく大きな力であります。

平和委員会の会員のみなさんがそれぞれの立場で大いに平和政治勢力のために頑張りました。

一方、少なからずの会員の方々が師走選挙に携わるなかで、この秋の最後の平和意見広告の取り組みが非常に遅れています。11月23日現在、個人賛同分の集約は200口に届かず昨年の同時期に比べて3分の1以下です。残された2週間にすべてがかかっています。各平和委員会では取り組まれています、選挙等の忙しさで遅れているのが実情です。手分けして知恵を出し合い、平和委

員会の底力を発揮するときです。実現目標に精一杯ご奮闘をお願いします。

沖縄県知事選 伊波必勝カンパ 最終的に19万円になりました。

各平和委員会が取り組まれた伊波必勝カンパは個人カンパも含めて最終的に19万円になりました。ご支援ご協力に感謝申し上げます。イハ後援会事務所に送りました。

財政を支えるワイン販売、 700本の注文ありがとうございました

安い輸入物ワインとは一味ちがう、定評ある勝沼醸造のワイン。今年は新しい方々のご協力いただき昨年を50本上回る注文がありました。12月の10～15日ごろにお届けにまいります。

沖縄県統一連などの呼びかけによる「普天間基地撤去を」の全面広告が朝日に

沖縄・米海兵隊普天間基地（宜野湾市）の無条件撤去、米軍新基地建設反対を訴えるフルカラーの全面意見広告が、11月10日付朝刊の朝日新聞全国版に掲載されました（写真）。全労連、安保破棄中央実行委員会、沖縄県統一連の呼びかけでつくられた意見広告実行委員会がとりくんだもの。2974団体と2594人の個人が賛同しました。茨城県平和委員会も賛同しました。

意見広告は、普天間基地の航空写真を右下に配置。「『銃剣とブルドーザー』でつくられた基地『基地をなくして経済振興を』『（新基地予定地に）14年間、杭（くい）1本打たせず』『（県内移設反対は）ゆるぎない県民の意思』などの見出しを立てて、政府は無条件撤去の立場でアメリカと交渉すべきだと指摘しています。

意見広告は、基地問題が大きな争点となる沖縄県知事選と同県宜野湾市長選（いずれも28日投票）での勝利をめぐりとりくまれました。



「市民が主役」を貫いた伊波市政の継続を

28日に同日投票される沖縄知事選と宜野湾市長選(21日告示)。伊波洋一前市長が知事選に、革新市政を二人三脚で担ってきた安里(あさと)タケシ前副市長が市長選に挑んでいます。「市民が主役」を貫いた伊波市政の豊かな実績を県政でも市政でも活かしてほしいという期待が市民に広がっています。



【市の真ん中を占め、住宅地に接する米軍普天間基地】



歓迎！新入会員のみなさんです よろしくお願ひします。

- 掛 弘 さん（小美玉市）
- 小松崎 和子 さん（小美玉市）
- 阿部 きよ子 さん（つくば市）
- 清水 甚三郎 さん（神栖市）
- 高畑 祥子 さん（水戸市）

各平和の会(平和委員会)のみなさん一人ひとりの力で、月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

平和新聞 2010年11月25日(木曜日)
1942号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 580
2010.11/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

句集「真実の風」(鈴木信)を読む

りゅうがさき平和の会の正慶岩雄さんより、「常陽新聞」に載った『「俳句は闘う」を实践する日々句集「真実の風」(鈴木信)を読む』という鴨下昭さん(俳句「あしはら」代表、龍ヶ崎市在住)の書いた記事の紹介がありました。

句集「真実の風」は、松川事件の元被告団長であった鈴木信氏の第一句集です。戦後最大の権力による謀略と言われた松川事件(1949年8月17日)。この句集は鈴木さんが「自由の身」(1963年9月、最高裁で無罪確定)になってから50年近い歳月を経た時点で、国家権力による理不尽な暴圧と闘った体験を回想した作品です。

鴨下さんが記事の中で挙げている鈴木さんのいくつかの句があります。

【逮捕時】・「すぐ帰る 夏シャツ一枚 家あとに」

【第1審・第2審、死刑判決】

- ・「真実断つ ピストル棍棒 吹雪く空」
- ・「判決文 読む声ふるえ またもどり」
- ・「死刑つけ にやにや笑い 氷る足」



【出獄・無罪判決】

- ・「涼風や 空気がうまい 解放の味」
- ・「豪雨に濡れ 未来を契る 握手群」

この句集の中から鴨下さんは、特筆すべきいくつかの作品をあげています。

- ・「真実は 壁を透して 根づく春」
- ・「真実の 外に詩はない 春一番」
- ・「水平に 九条芽吹く 梨畑」
- ・「夏痩せの オルグささえる パンの耳」

鴨下さんは、『「真実の風」を読んで私は「俳句は闘う」を実感した。』と書いています。

守谷平和の会総会 11月20日(土)に開催

・・・・・・・・・・・・・・・・

守谷平和の会では、5回目の総会を行いました。1年の活動のまとめと、次年度の方針を話し合い、総会のあと、県原水協会長・加藤岑生さんの講演(NPT再検討会議NY行動のビデオ上映と原子力の平和利用等)を聴きました。

戦後65周年を祈念し「平和文庫」シリーズ創刊!

『平和文庫』について

日本の戦後、そして今日を知るうえで、忘れてはならない戦争の記憶。日本でも、かつて戦争があった、そしてその現実と直面して、そこから生まれた祈りがあった。

一どの作品からも、戦争のもたらす心の痛み、恐れ、不安、そして時には喜びまでもが、胸に伝わってきます。まっすぐに、今日の私たちの心に届きます。

『この子を残して』『夏の花』『屍の街』『原爆詩集』『長崎の鐘』を第1回ラインアップに。今後も、さらに珠玉の作品群を、まだ見ぬ子どもたちのために、そして私たち自身のために刊行してまいります。

【推薦者】

大林 宣彦(映画作家)／黒古 一夫(文芸評論家・筑波大学大学院教授)／黒柳 徹子(女優・ユニセフ親善大使)／早乙女 勝元(作家)／

田上 富久(長崎市長)／林 京子(著述家)／松谷 みよ子(児童文学作家)／柳田 邦男(ノンフィクション作家)／山田 太一(脚本家)／吉永 小百合(俳優)／

【第1回全5巻ラインアップ(5冊同時刊行)】

『この子を残して』 永井 隆 著

『夏の花』 原 民喜 著

『屍の街』 太田 洋子 著

『原爆詩集』 峠 三吉 著

体裁：四六判・並製・カバー装

価格：1,050円(税込)

発行日：2010年7月13日

発行：株式会社 日本ブックスエース

発売：株式会社 日本図書センター

『代表理事・常任理事はこんな人』

第八回目は、常任理事(那珂平和委員会)・川又俊水さんです。



私は1958(S33)年、東電に入社し、千葉火力発電所に配属になりました。

平和運動とのかかわりについて

1963(S38)年、私が青年婦人部長のとき横須賀に原子力潜水艦が入港するので反対しようと機関紙に記載し、メーデーにハリボテを出品しました。会社より攻撃がありましたが、団結の力ではね返すことが出来ました。翌年、横須賀には船で行き、職場からも50名が参加しました。

1996(H8)年、職場革新懇として、沖縄県米軍普天間基地の県内たらいまわしである名護市辺野古海上基地建設反対集会に参加しました。

人間の英知である科学や生産技術が戦争(人殺し)ではなく、人類の進歩発展のために使われる平和な社会でなければと思いガンバっていますので、よろしく願います。

アフガンへの自衛隊派遣は違憲

13日の日米首脳会談で菅直人首相は、アフガニスタンに自衛隊医療部隊の派遣を検討することを表明しました。北沢防衛相は、国際治安部隊(ISAF)のNATO(北太平洋条約機構)軍の訓練ミッションに医療・衛生分野の教官派遣を要請されていることを明らかにし、法的根拠も含めて検討する、としています。

ISAFは、タリバン掃討を行っている軍事部隊であり、ISAFの文書に、派遣された医官の行う活動が「戦場での初期治療」と明記されており、戦闘行為と結びついたものです。アフガンでは、今年上半期の紛争による民間人死傷者は3268人にのぼり、まさに戦地といえる状態です。アフガンへの自衛隊の派遣は、憲法に違反したものです。民生支援を行っているボランティアも、武装勢力のターゲットになるからと反対しています。憲法9条に違反する派遣は許されません。